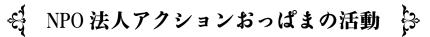
追浜あんす"通信

第8号 2015年1月

発行:特定非営和活動法人アクションおっぱま



今年度も追浜のフィールドミュージアムを実 現するために様々な活動を続けてきました。

第三海堡関係の見学者も増加しており、小冊子の増し刷りもできたことからそれを活用して多くの方に案内説明をすることができました。これはおっぱまはっけん倶楽部の協力によるもので皆様の関心の高さを感じる活動です。この活動が追浜フィールドミュージアムの実現に向けて基礎になってくると思います。

ワイン作りも継続して続けています。こみゅ に亭もワインや野菜の販売を行うとともに食事 や喫茶の利用も増えてきており地域の居場所と して定着してきています。

新しい追浜の住民のコミュニティ醸成の仕事

としてルネ追浜の支援も続けています。コミュニティクラブが立ち上がったり次第に自立した活動になってきていると思います。

また貝山緑地については過去に子どもたちと ワークショップをやったりした経過もあり、そ の再確認や新たな調査も行い、具体化に向けて 理事会で話しあったり計画の形にまとめていこ うとしています。

NPO法人アクションおっぱまとしては今後も追浜のまちを元気にしていく活動を継続していくつもりです。多くの皆様のご意見も入れて計画は作成していきたいと考えていますのでどうぞ意見がある方はどしどしお寄せください。

(NPO 法人アクションおっぱま 理事 吉田洋子)

₩ 商店街の新たな役割

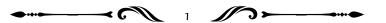
商店街には物を販売するだけでなくもう1つ別の役割がある。コミュニティであり、「居場所」があること。「家」でも「職場」でもないサードプレイス。居場所=自分らしく、好きなように、役割があり、働きがあること。その意味では「こみゅに亭」がそれにあたる。好きな





の「賑わい補助金」を活用し商店街に映画をテーマにした「者」と「女性」を呼び込む連続イベントセミナーを企画実行した。追浜商店街でも今ある資源を活かし新しい力を呼び込むことを期待している。

(NPO法人アクションおっぱま 菊地真紀子)





追浜空き家プロジェクト

関東学院大学人間環境学部人間環境デザイン学科 教授 水沼淑子

日本各地で空き家問題が喫緊の課題となっています。追浜でも同様です。そんな空き家を上手に活用することが出来ないかと考えた関東学院大学人間環境学部の学生たちがいます。すでに汐入で学生による空き家活用の事例があるものの、この試みは学生たちが発案から計画まで自ら主体となって展開している点に特色があります。

彼らは東日本大震災直後に入学してきた学生で、学生同士の連携や、一人暮らしの学生と地域の関係がもっと密になることは出来な

いかと考えました。そこで、空き家をシェア ハウスにし、学生と学生、学生と地域を結び つける出会いの場にしようとするプロジェク トを考えました。

彼らはアクションおっぱまにも助言を仰ぎ、追浜を歩き回り空き家の実態を把握するとともに、地域のイベントに参加するなど自分たちができることを開始しました。仲間も増えました。私たち教員も、大学にとっても地域にとっても意味あるこのプロジェクトの具現化に向け何ができるか模索中です。









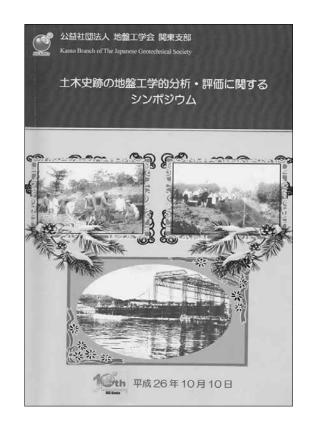
貝山地下壕の調査報告書

(公社) 地盤工学会関東支部

?

貝山地下壕は東日本大震災以降立入り禁止 となっていますが、(公社) 地盤工学会関東 支部による専門調査(2012年4月~2014 年3月)がまとまり、その報告書が横須賀 市に提出されました。その内容は、地形地質 の概要、現地調査の結果、施工上の特徴や土 木的価値、関東地方における類似地下壕の状 況、保存・公開に向けての提言など多岐にわ たっており、ここで紹介することは困難です が、NPO 法人の事務所に 1 部ありますので、 ご覧いただくことは出来ます。なお、2015 年は横須賀製鉄所開設 150 周年に当ります ので、記念事業の一環として貝山地下壕を含 む横須賀市の土木遺産に関する講演会が検討 されています。詳細が決まりましたら、改め て皆様にお知らせします。

(NPO 法人アクションおっぱま 昌子住江)



吴 具山緑地見学 2014年11月8日(土) **子**

青木副理事長の発案で、理事5名、おっぱ まはっけん倶楽部有志7名計12名で改めて 貝山緑地を見学しました。追浜神社の痕跡や 予科練発祥碑、海軍航空隊発祥記念碑を巡り あんずの里を見学、植栽された方々の銘板で しばし思い出話をしました。浄化センターの 駐車場から恐らく燃料庫であったと思われる 巨大なタンクを見上げながら、見学もできな



い放置されたままの追浜の歴史的遺産を残念 に思う参加者たちでした。見学終了後は、ア イクルのビデオでゴミ回収の研修を受け、最 後に青木副理事長持参の貴重な資料を拝見し て名残惜しいまま、解散になりました。今後 もこのような機会を計画して欲しいとの要望 があり、特に地下壕へのさらなる調査、見学 の実現への切望がありました。

(NPO 法人アクションおっぱま 理事 河村啓子)





蒲田の天神橋はかって暴れ川と言われた呑川に 架かっています。長さ約40m、幅、約7mの 天神橋、その橋の下に土砂を少し含んだ色の河川 が今はゆったりと流れています。橋の横浜側の袂 に北野神社があります。北野神社にはかっての暴 れ川にまつわる石碑が立っています。石碑には嘉 永2年、矢口村天神森に鎮座していた天神様が洪 水で3度も杉原氏宅に流れ込み、杉原氏は矢口村 と交渉し社を建て神体を安置し、北野神社とする、 と記されています。



蒲田の天神橋は追浜の天神橋に比較すると全体的に存在感があります。

編集後記

今年度のあんず通信を心配されていた方もいたかと思います。遅くなり申し訳ありません。

でも結構実のある内容になったのではないか と思っています。次号も続けて企画をしていま すので乞うご期待です。



会→ 会員の声 → 3

NPO 法人らしく並木 福島富士子

NPO 法人らしく並木は、「住民誰もが自分らしく並木に住み続ける」ことができるよう、まちづくり活動と支援事業を目的に設立して 10 年になりました。

並木は、30年以上前に横浜市の計画に沿って 作られた集合住宅団地で、目下急激な少子高齢化 が進行中です。エレベーターのない建物も多く、 年をとっても住めるのか、災害が起きても逃げら れるのか、こうした問題をまちづくり講座で考 え、また、街歩きをしたり(追浜にも行きました)、 他の団体と協同で活動したりしています。一方で は、訪問介護事業でヘルパー派遣を行っています。

まちづくりの一環、楽しく暮らすための居場所作りの場として、毎週水曜日には退職した男性が中心となって金沢スポーツセンターでカフェを開いています。お近くですので、是非遊びにいらして下さい。



並木のまちなみ



カフェ風景

追浜あんず通信 2015 年*月発行 8号 発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま 発行人 昌子住江

編集 NPO 法人アクションおっぱま 編集委員会